

〈声明〉

イスラエルはガザのジェノサイドをやめよ

即時停戦を求め、連帯して行動を

2023年11月21日

NPO 法人平塚らいてうの会

パレスチナのイスラム組織・ハマスのイスラエル攻撃から始まった軍事衝突は1か月を超えました。ハマスの無差別攻撃、人質拉致は非難されるべきですが、その後のイスラエル軍によるガザ地区への大規模攻撃は、もはやジェノサイド（集団殺害）であり、いかなる理由があっても許されない国際人道法違反の行為です。ガザ地区は封鎖によりライフラインを絶たれ、空爆、地上侵攻にさらされ、死者は1万人を超えて増え続けています。その3分の2は女性と子どもであり、病院への攻撃によって新生児や妊産婦、病人や避難民が医療も受けられずに命を落とすなど、一刻も放置できない非人道的な状態です。

「イスラエルはジェノサイドをやめよ」「即時停戦を」と呼びかける声と行動が、国内でも世界各地でも急速に広がっています。国連安保理でも戦闘の「人道的中断」を求める決議が採択され、イスラエルを支援する米国も拒否権を発動しませんでした。

日本政府は、悲惨な戦争を体験し、憲法9条をもつ国として、イスラエルに軍事行動の中止を求めるとともに、国際社会に「即時停戦」を提案すべきです。

平塚らいてうは、日本の再軍備をめぐって揺れる1950年に起草した「非武装国日本女性の講和問題についての希望要項」に、「すべての国の安全と自由と独立のため、国際平和運動にあらゆる面で率先協力しその任務を果たしたい」と記し、憲法擁護、再軍備反対の決意を示しました。私たちは、女性の手で平和な世界を実現しようというらいてうのこころざしを受け継ぎ、このジェノサイドの中止、軍事衝突の外交による解決、パレスチナ問題の国際法にのっとった解決のため、連帯して行動していきます。